風土会

会　報　（2012 年２月）№36

文責　柴田　悦子

第 36 回学習会を，平成 24 年 2 月 24 日（金）19：00～20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第 36 回目の内容

講師　重枝一郎先生（福岡市教育センター主任指導主事）
1　学級風土づくりの具体的なプロセス
2　「予防・開発的生徒指導の実際」プレゼンテーション
3　新宮中学校　今福先生の実践報告「風土会をうけての学校の取り組み」

学校風土づくりの具体的なプロセス

1　学級風土について

学級風土	＝	学級の雰囲気	＋	学級文化
（性格・特徴）		（その場の状態）		（意図的成果）

2　学級風土の効果

○問題行動の抑制
○肯定的行動の促進
○意欲・レジリエント

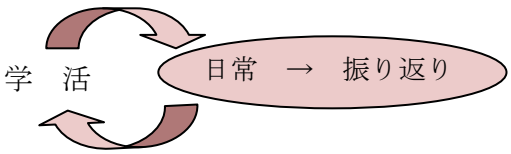
3　学級風土と教師の個性

ふんわりクラス ⇒ めんどうを見るタイプ
きびきびクラス ⇒ 常に課題を投げかけるタイプ

どの生徒も（反抗も含めて）教師のことを見つめ，教師の行動に応じて反応している。
教師は大きな一票をもつ。

4　具体的なプロセス

①ねらいを定める（どんなクラスにしたい？どう変えたい？どんな行動が必要？よい行動を増やすには？）
②生徒たちの考えを刺激する（「ねらい」を感じ，考える時間を設けていく）
③くり返し伝える（「～な行動」を振り返ることをくり返す。少なくとも１学期の間）
④モデルを示す（「～な行動」を教師自身が示す）
⑤日常の行動を振り返る



解　説

定義づける

「学級風土」「学級の雰囲気」「学級文化」等の似たような言葉について，明確に理解するために，自分なりの解釈で定義づけたいと考えています。感覚的にとらえていることを言語化することは，教育を語るために必要だと思います。「学級の雰囲気」とは，その場その場の状態と，とらえます。「学級文化」は，意図的に継続しながら生じる成果です。意図的という点がポイントです。それを併せて「学級風土」と考えると，「学級風土」は包括的であり，大きな概念といえます。

個別支援に偏りすぎるよりも，集団の教育力を活用することで，特別な支援を要する生徒にもよい影響があるとわかってきました。カウンセラーもそのことに着目しています。「学級風土」自体が手助けになるのです。学級集団の雰囲気は，学習意欲にも大きく作用します。

「学級の雰囲気」を把握し，意図的に教師が「学級文化」を築くために継続的に働きかけることで，教育力の高い「学級風土」が醸成できるのです。

レジリエンス

「レジリエンス」とは心理学用語で，「しなやかで折れない心」を言います。どんなに偉業を成し遂げた人でも，たった一人でやり遂げた人はいません。あきらめずにやりきる忍耐強さが継続するのは，個人のパーソナリティーによる要因は小さく，まわりの人的な環境が大きく作用しています。何か結果を出した人は，必ず仲間がいて，励ましてくれます。人は「成し遂げる」ことで成長します。教師や親，地域の人たちは，「成長」「忍耐強さ」「まわりの人的環境」「継続」等のキーワードをつなげ，語ることが大切です。「すぐにあきらめたり，人のせいにしたりする人は，成長しない！！」と言い放つことも，時に必要です。「心が折れないためには，励ましや仲間が必要」ということを，くり返し語るのです。

学級風土づくりに，教師は大きな一票をもっている

教師の個性は，学級風土に影響を与えます。担任が生徒にプレッシャーをかけないでめんどうを見るタイプだと，「ふんわりクラス」に，常に課題を投げかけるタイプだと「きびきびクラス」になる傾向があります。いい教師は，偏ることがありません。経験を積み重ねる過程で力量を身に付けていきます。

例えば，生徒がゆるんできたら，すかさず刺激を与え場を引き締めます。教師はそのタイミングをねらっておくのです。これは，経験から身に付くのですが，このような心持ちがあると，教師に余裕が生まれ，適切な指導ができます。

学級風土づくりの具体的なプロセス

目標をきっちり生徒と共有します。そのために，生徒から考えを引き出していきます。「クラスをどう変えたい？」「そのためには，どんな行動が必要？」発言を引き出すのがコーチングです。ブレーンストーミングで，必ず全員の意見を出させます。ブレーンストーミングは，質より量を重視します。全員に当事者意識をもたせた上で，クラスにマッチングしているかどうかを，段階を踏んで考えさせ，合意させます。それがコンセンサスです。コンセンサスとは，みんなで合意形成することです。

いきなり 40 人で合意するのは無理です。個人→ペア→班→クラス全体等で，考える時間を設定します。この段階であわてると，目標が共有されず，飾りになってしまいます。教師に見通しや余裕，引き出しがどれくらいあるかが，鍵を握っています。

例えば，「思いやり」というキーワードならば（キーワードは何でもよいのですが・・・）それを日常にからめて，広げたり深めたりしていきます。「思いやりのある行動」「その意味」「その感情」等をトライアングルで絡み合わせて考えさせます。「思いやり」を立ち位置にして，関連付けて思考させ，行動させるのです。バラバラの取組では，もったいないという発想です。

また，その評価活動では，友だち同士の評価を取り入れます。そうすると，教師が見逃していることを補えます。生徒がイメージをもてていない部分は，教師が示していきます。

このようなプロセスを経て，世論をつくるのです。集団づくりと個別支援は，両方をバランスよく行いま

す。

日常が本物のエクササイズ！　小手先のエクササイズで劇的に集団がよくなることはない！

「風土会」では，エクササイズ（演習）を紹介していますが，それを実際に自分のクラスで実践しても，うまくいかないことがあります。所詮，それは「小手先のエクササイズ」であり，それを実践しただけでは，劇的に集団がよくなることはありません。「小手先のエクササイズ」に日常の教育活動を関連させ，フィードバックを入れていくと，「小手先」が「意味のある」エクササイズになっていきます。給食時間だったり，清掃時間だったり，日常のさまざまな時間に，生きてきます。そうすると，意味を感じてエクササイズをするようになるという，よい循環が生まれます。体育会や合唱コンクールは，大きなエクササイズです。教育活動を閉じて考えずに，つながりで考えるという視点が大事なのです。

いじめとかすんな！～予防・開発的生徒指導の実際～（プレゼンテーション）

全教育活動を通じた学び合う肯定的な人間関係づくりを「いつでも，どこでも，いつまでも」

「いじめ」に閉じた取組では，いじめはなくなりません。いじめもなくなるし，学力も上がるし・・・という取組をしないと，いじめはなくなりません。

「いじめ」の指導は，入学時や学年のはじめ，いじめが起こったときの対処的な指導が多いのですが，それは，後手に回る生徒指導です。「勝負は一瞬」です。子どものよさを引き出し，すべての教育活動ですすめる「予防・開発的生徒指導」を通して，「学校の魅力」を生徒と共に創造する必要があると考えます。

Ａ＝ＭＶＰ（よい学級文化をつくる教師の方程式）

Ａはアクション＝教師の行動です。予防・開発的生徒指導をする教師を表します。
Ｍはミッション＝使命感です。子どもの幸せを喜び，不幸を悲しみ，共に学び，成長する教師のつとめです。
Ｖはビジョン＝見通しです。時間軸（過去・現在・未来）での取組や空間軸（グループ・クラス・学校・地域・社会）での取組を関連付けて，すべての教育活動において相互作用をねらいます。
Ｐはパッション＝情熱，ポジティブメッセージを発信できる教師です。

ひとつのキーワードでたくさん発想させる

「いいリーダーはいいメンバーになれる，いいメンバーはいいリーダーになれる」
「人には発達課題がある。０歳～３歳はスキンシップを通して『信頼』。４歳～小１では，ダメなことはダメという『がまん』。他者を意識しはじめる小２～小４では『思いやり』。小５～中１では『感謝』。中２～は『感動』。さめた人間ではなく，感動できる人になるために，発達のどこが自分には足りないか？今ならまだ間に合う。意識してがまんしたり，意識して思いやりのある行動をしたり。人としての基盤は信頼。だから，出会いでは信頼関係を意識しよう」

つなぐ力が教師の専門性

教師の専門性が教科指導だけという，閉じた考え方であれば，塾の先生や東大出身者が評価され，求められます。しかし，教師の専門性は，教育活動全体をトータルでデザインし，つなぐ力だと定義し，それをもっと，地域や家庭に発信する必要があると思います。異質をつなぐ境界線に，教育の活力が生まれます。教師の専門性は，教科を越えた指導力だととらえます。このような，トータルで柔軟な発想が，教育効果を上げるのです。教科を越えた指導力は，生徒に関わり続けた結果，生徒につけてもらった力ともいえます。

本日のキーワード

- 学級風土（性格・特徴）＝学級の雰囲気（その場の状態）＋学級文化（意図的成果）
- 予防（子どものよさを引き出す）・開発的（すべての教育活動を関連させる）生徒指導
- Ａ（行動）＝Ｍ（ミッション）Ｖ（ビジョン）Ｐ（パッション，ポジティブメッセージ）
- 信頼（０～３歳）我慢（４歳～小１）思いやり（小２～小４）感謝（小５～中１）感動（中２～）
- 感情は伝染する

♪　学習会に参加された先生方の感想　♪　（参加人数　18 名）

・今日は風土会に絶対参加しよう！と決めていました。本当に毎回思いますが，来てよかったと思いました。私がいつも「振り返り」がうまくできずに「楽しかった」で終わっていた理由がわかりました。日常に生かしたり，フィードバックしていなかったり，どこかであきらめたりしていたのではと思いました。また，どうすれば重枝先生のように説得力のある，聞き入ってしまう話や話し方ができるのかと思って，キーワードやセリフをメモしているのですが，すぐわからなくなります。それは，「何を伝えたいか」の「何」がわかっていないからだと思いました。もっともっと自分で勉強して，自ら探して，理解することが大事だと思いました。

・感動しました。教師として自分にはどのような力が必要なのか，子どもにとって，どんな教師，どんな学校だと幸せなのかを考えて，日々，教員採用試験の勉強をしています。はじめて風土会に参加して，刺激を受けるワードや思い直しをさせられるワードがたくさんありました。ほとんどそのようなものだったのですがその中でも一番心に残ったのは，異質をつなぐ力が教師の専門性であること，いじめをなくすには，何かひとつの取組をするのではなく，あらゆる教育活動の相互作用，相乗効果であることです。大学生活や教育実習，塾で教える経験や人をまとめる経験から感じていたことを，言葉にしてもらったという気持ちです。自分の目標とすべき姿が見えました。一発でファンにさせられました。

（新任の先生や教員を目指す大学生などの若い世代が，風土会に参加して，刺激を受けている姿が頼もしく嬉しく思います。これからの教育界を担う若い世代が，目標を見出し，もっともっと勉強しようと意欲をもち，学んでいる！！風土会の存在価値だと自負しています。その姿から「風土会」も活力を得ています）

・久しぶりの参加でしたが，貴重なプレゼンをお聞きすることができ，有意義な学習でした。今，学校の現状をなんとかしたいという強い思いからヒントをいただきたいと参加しました。いじめにしろ，風土づくりにしろ，原点にあるものは共通点があると認識できました。また，本を熟読し，重枝先生からも直接アドバイスをいただきながら，実践していこうと思います。ありがとうございました。

・今日の重枝先生のお話を聞きながら，自分の中学生の頃の事を思い出しました。入学した直後，クラス替えの直後に体育の授業でスキンシップをとったり，人とのつながりを感じられるような活動（体づくり運動）を行ったりしたことで，その後の授業を安心して受けることができ，授業にも集中することができました。私自身，安心できた経験があったので，ぜひ，今日，教わったことを生徒に還元できるようにがんばりたいです。

・「いじめとかすんな！」のお話は，今まで風土会でお話して頂いたことのエキスがギュッとつまっていて，とてもよかったです。今までに学ばせて頂いたことを振り返ることができました。特に，「本当はこの自分を見るのはイヤなんだ」とおっしゃりながらも，その実践を見せて頂いたことに感激しました。これこそ，私たちにモデルを示して下さったのではないかと思います。やはり，重枝先生の生きた言葉，キーワードが一番心に響きます。説得力があります。ありがとうございました。

（ベテラン先生方も，この風土会に何かを求めて参加していることを実感します。それは，学校の現状をなんとかしたいという強い思いであったり，生徒に還元できるものを学びたいという思いであったり，重枝

先生の実践から生まれたモデルやキーワードからヒントを得たいという求めであったり，さまざまです。そんな先生方の求めに応えたいという思いが「風土会」のモチベーションになり，重枝先生はいつも全力投球です！よい循環が「風土会」にはあるのだと思います）

新宮中学校（今福先生）の実践発表の内容と感想

新宮中学校では重枝先生の職員研修（講演）をきっかけに，学校全体の取り組みとして『リレーション科』の時間を設け，年間６回の「人間関係づくり」の授業をされています。

（1 年生の取組）
4 月　・学年集会（リレーションとは？），仲間作り，言葉のキャッチボール，バースデーチェーン
6 月　・マジカル褒め言葉
9 月　・すごろくトーク，ビーイング
11 月・気持ちの整理箱
1 月　・みんなでリフレーミング
3 月　・別れの言葉

（今後の課題）
①小手先だけ，手法だけのマネにならない，その先生独自の指導工夫を常に考える
②日常の全教育活動で「集団が個を育て，個の成長が集団を育てる」を意識する
③お互いに意見を出し合う活動を，段階的に増やす
④掲示物の統一（「人の学びの記憶」「ボディリス」「ハーリス」等）
⑤学年集会を活用し，学年全体での取り組みにする

・小学校教諭で 6 年生担任ですが，今福先生のような年間を通しての計画がなかったことに気づかされました。子どもの実態に応じて行うのではなく，成長の目標をめざして計画的に取り組んでいきたいです。

・「リレーション科」にとても興味をもちました。学校全体で取り組んでいることが，とてもすばらしいと思います。年度末，学級や学年の終わり方を，もう一度じっくり考えてみようと思いました。

・クラスで取り組むことも大切ですが，学年，あるいは学校全体で取り組もうとすることが，一番大切なことだと思いました。また，ビジョンをしっかりもって，ただのゲーム，レクリエーションにならないように，どんな思いや力をつけたいのか，教師だけではなく子どもにも意識をもたせることが必要だと思いました。

・「必ず日常生活に」という言葉が，この活動の本質を理解しているのだと思いました。すばらしかったです。日常に関連付けることが，一番大切なことだと強く思いました。

・若い今福先生の実践をお聞きして，自分自身も本当に励みになりました。自分ももっとがんばっていきたいと思います。このような実践は，自分自身で体験し，積み重ねるべきなのだと思いました。前向きな姿勢を見習いたいです。

・すぐ近くの新宮中学校で，リレーション科という取り組みが行われていることをはじめて知りました。ぜひ，自分の学校（古賀北中学校）でも，このような実践をしたいと思いました。ありがとうございました。

・新宮中学校の教員です。学級では，９月だけではなく，席がえの度に「すごろくトーク」をしています。子どもたちも楽しみにしています。これからも，風土会で学ばせて下さい。よろしくお願いします。

※今福先生がはじめて「風土会」に参加するきっかけは，4 年前に同僚だった福原先生（当時，福岡市立席田中学校）に誘っていただいたことだったそうです。今福先生のおかげで，福岡市だけではなく，新宮中学校や古賀北中学校へと実践の輪が広がっています。人と人とをつなげる今福先生の実践は，ひとつの学校にとどまらない広がりを見せています。すばらしい実践発表をありがとうございました。